

緑化だより

No.195 令和5年7月号



タマアジサイ

- 季節の花(キキョウ(朝顔))
- 水生昆虫の話(ユスリカ)
- 小さな世界こけ(キヨスミイトゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

キキョウ(朝顔)

「朝顔(あさがほ)は朝露(あさつゆ)負(お)ひて 咲くといへど

夕影(ゆふかげ)にこそ 咲きまさりけれ

作者未詳 万葉集 巻10-2104

これを訳しますと

「朝顔はいかにも朝に顔をだす花で、清楚で初々しいですが、夕方の光の中では、それよりもっと深い藍色の花を咲かせます。」

万葉集 巻 4-594 には「夕影草(ゆうかげくさ)」と詠まれ、夕方の光にそよぐ草として、人々は品格の高い朝顔を愛していました。

この「朝顔」は現在のアサガオではなくて、キキョウであろうというのが定説になっています。山上憶良の詠んだ秋の七草の歌の朝顔もキキョウであろうと言われています

キキョウはキキョウ科に属して、北海道西南部から沖縄にかけて山野に自生する多年草です。国外では朝鮮半島、中国大陸、東シベリアに分布しています。花は夏から秋にかけて、青紫色で先が星形に5列した花が咲きます。とくにつぼみは、ふつくと風船のように、かわいく膨らんで、古くから親しまれています。真夏日でも生育が衰えず、真冬のマイナス10℃でも影響を受けない丈夫な植物ですが、花屋に並んでいるキキョウは、初夏の早咲きの園芸種が多く、本来の時期に咲く自生の花は環境の変化でだんだんと減少しつつあります。そのため環境省の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。



キキョウ

キキョウは薬用植物として栽培され、根は漢方薬に、またお正月を祝うお屠蘇の原料としても利用されます。(上村)

水生昆虫の話

ユスリカ

夕暮れ時、夕涼みをしに外を散歩していると、小さな蚊のような虫が集団で乱舞し、蚊柱が立っている光景をよく目にする季節になりました。

この虫の集団、頭の上をずっとついてくるので、ちょっと嫌だなと思われる方も多いのでは？この蚊柱、大きいものになると数十メートルの高さになるものもあるそうです。また、夏の夜、家の灯りに誘われて網戸のすき間から家の中に入ってきたりもします。

この一見すると小さな蚊の集団のように見える虫は、「蚊柱」や「頭虫」とも呼ばれたりしていますが、実は昆虫綱ハエ目ユスリカ科で、蚊ではなく「ユスリカ(揺蚊)」という名のハエの仲間なんです。虫も見かけによらないものですね。

この小さなユスリカ。蚊のように吸血することがないばかりか、口も消化器も持っておらず、日本国内だけでも1200種類が記録されているそうです。

成虫の寿命は、僅か1日～数日の何ともはかない虫で、大群で飛んでいるユスリカは、殆どがオスだけの集団。電柱の上や、人の頭の上など、周囲で少しでも高い位置で大群になることで、メスに存在をアピールして子孫繁栄のための生殖行動に全力を注いでいるのです。

1匹から数匹程度のメスが交尾の相手のオスを探して蚊柱の中に入り込むと、そこはメスにとってまるで逆ハーレム状態。交尾は大群の中で落下しながら行われるという、何だかドラマチックな繁殖行動ですね。

交尾をしたメスは大群から離れて、水面や水草などに産卵します。ユスリカは、卵→幼虫→さなぎ→成虫というライフサイクルで、皆さんが魚のエサとしてよくご存じの「アカムシ(赤)」もユスリカの幼虫です。

全長は10mm程度で、赤い色素はヘモグロビンの様に酸素を蓄えるものであり、赤いアメリカザリガニと同じ酸素量の乏しい水質階級Ⅳ(大変きたない水)の指標生物でもあります。環境適応能力が非常に高く、上流域にはヘモグロビンを持たない別の種類のユスリカも生息しています。ちなみに写真のユスリカは水質階級Ⅰのウズムシ(プラナリア)と同じ場所に生息していました。

幼虫は、富栄養化した水域で特に多く発生し、泥中や水中の有機物を消費することで分解し、やがて成虫となることで、川や池などの生態系はもちろんのこと、水質を改善するという側面もあります。しかし赤い色素で酸素を蓄えることができると言っても、あまりにも汚染が酷いとユスリカすら消えてしまうため、川の汚染の状態を計る自然のバロメーターでもあります。(西村)



左下;ユスリカの幼虫(赤虫と)、右上;ウズムシ



左;ユスリカの幼虫(赤虫と) 右下;ウズムシ

小さな世界こけ

キヨスミイトゴケ

緑化センターの正面ゲート脇のツツジや第2駐車場のツツジに、糸くずのようにぶら下がり、風に揺れているコケが見られます。コケに関心がない人にとっては木の枝に何かが引っかかっているくらいにししか思われませんが、これはキヨスミイトゴケです。

蘚苔類ハイモゴケ科で雌雄異株。空中湿度の高い場所に生育します。

正面ゲート付近も第2駐車場の付近も湿潤な風が吹いているのでしょ。

キヨスミイトゴケの一次茎は枝や岩に着生し、そこから垂れ下がる二次茎は、細長い光沢のある黄緑色で、不規則に枝分かかれし、長さ15cmから30cmになります。昔、長くなった茎を緑色の糸として用いたことがありました。

名前は千葉県清澄山で見つかったことに由来します。(山根)



キヨスミイトゴケの一次茎



キヨスミイトゴケ

研修会のご案内

- 7月 2日(日) 『夏のきのこ教室』
園内でキノコを採集し、午後、持ち寄ったキノコを鑑定します
※ 自由参加、無料、採集用かご持参、荒天中止
10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章
- 7月 4日(火) 『7月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※ 自由参加、無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：森林インストラクター
駄賀 恒男
- 7月 4日(火) 『シダの世界』
散策路を歩きながら植物を観察します
※ 自由参加、無料、ルーペ持参
13:30～15:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
駄賀 恒男
- 7月 16日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加、(随時受付)、材料費 1 作品 100 円、荒天中止
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧
- 7月 16日(日) 『夏休み昆虫教室』
昆虫の生態や採集方法を学び、屋外で採集します
※ 要予約(受付終了)、無料、採集用具持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛
- 7月 17日(月・祝) 『藍のトントン染め』
藍の葉をトントンたたき、ハンカチを染めよう
※要予約(キャンセル待ち)、材料費 500 円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンス インストラクター
山縣 圭子
- 7月 23日(日) 『昆虫標本作り入門』
昆虫について学び、標本を作ります
※要予約(受付終了)、材料費 1,000 円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎
- 7月 23日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加、(随時受付)、材料費 1 作品 100 円、荒天中止
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧
- 7月 30日(日) 『夏休み自由工作塾』
※ 自由参加、(随時受付)、材料費 1 作品 100 円、荒天中止
10:00～15:00 レストハウス裏庭
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧

お知らせ・ご案内 ☆

第7回ひろしま遊学の森

四季の移ろい 写真コンテスト

写真募集中 締切り;11月30日(木)

詳細はHP,チラシでご確認ください。

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ボード展示)

第13回ひろしま遊学の森

こども写生大会作品展

～7月5日(水)

広島県愛鳥週間ポスター入賞作品展 7月15日(土)～8月9日(水)

(ガラスケース展示)

琉球紅型染め

7月20日(木)～8月30日(水)

場所:学習展示館(ボード展示)

季節の花 写真展

～7月30日(木)



令和4年度広島県愛鳥週間
ポスター入賞作品展より